

学研高山地区第2工区まちづくり検討有識者懇談会 「議論の流れとまちづくり検討案のイメージ（1/2）」

懇談会まとめの構成・方向

1. 高山地区第2工区の現状と課題

学研都市の状況、高山地区の位置づけ、第二工区の経緯、現在の都市計画、交通環境、自然的状況、現況土地利用等

2. 高山地区第2工区の役割・まちづくりの方向性

- ①関西全体のイノベーション推進の総合力を高めていく学研都市としての中心的役割を担う。
- ②先行する精華・西木津地区と連担、連携して学研都市の拡大中心地区を形成する。
- ③学研都市のオープンイノベーション創出の中核的機能を担い、先端大を中心とするイノベーション拠点を形成する。
- ④都市と農、自然環境が共生するモデル都市の形成を目指す。

3. 高山地区第2工区の土地利用の方向性

- ①学術研究・産業機能の導入
 - ・先端大、ATR、理化学研究所等との企業連携（医薬品製造、ICT、AI、IoT、ロボット産業等）
 - ・研究開発型産業:先行する中心地区＝精華・西木津に代わる受け皿／学研北田原地区(学研北田原テノエリア)との連携
 - ・学研都市の成果、集積がより発揮できる「ものづくり産業」の導入も検討する。
- ② 居住機能の導入
 - ・大都市通勤者でなく権利者、学研都市で働く人のための居住機能
 - ・子育て、仕事しやすい定住環境を実現するモデル都市
 - ・学研都市の成果を生かし、研究にも資する住宅地
- ③ 自然環境・農との共生

4. 高山地区第2工区の土地利用ゾーニング(構想)

5. 交通ネットワーク形成のあり方

- ①広域交通
- ②高山地区及び隣接地区連絡
- ③公共交通ルート

6. 高山地区第2工区の事業化方策

7. 今後の取り組み

第4回 懇談会のテーマ

■「まちづくり検討案」のイメージ

- 1. 高山地区第2工区の現状と課題
- 2. 高山地区第2工区の役割・まちづくりの方向性
- 3. 高山地区第2工区の土地利用の方向性
- 4. 高山地区第2工区の土地利用ゾーニング（構想）
- 5. 交通ネットワーク形成のあり方
- 6. 高山地区第2工区の事業化方策
- 7. 今後の取り組み

■高山地区第2工区の土地利用の方向性（第3回意見）

- 都市的土地利用の定義
- 自然的土地利用の定義

■高山地区第2工区の土地利用ゾーニングの検討

- ・地区の切盛造成、土量バランスを踏まえた土地利用ゾーニングを検討

■交通ネットワーク形成のあり方（第3回意見）

- 広域、域内交通

第5回 懇談会のテーマ

■「まちづくり検討案」のイメージ

- 1. 高山地区第2工区の現状と課題
- 2. 高山地区第2工区の役割・まちづくりの方向性
- 3. 高山地区第2工区の土地利用の方向性
- 4. 高山地区第2工区の土地利用ゾーニング（構想）
- 5. 交通ネットワーク形成のあり方
- 6. 高山地区第2工区の事業化方策
- 7. 今後の取り組み

■第2工区の土地利用ゾーニング（構想）

- ・各土地利用の範囲及び導入機能
- ・段階整備の考え方

■交通ネットワーク形成のあり方

- ・高山東西線
- ・高山南北線

■第2工区の事業化方策

■今後の取り組み

- 懇談会の意見の取り纏めと今後の課題等

学研高山地区第2工区まちづくり検討有識者懇談会 「議論の流れとまちづくり検討案のイメージ（2/2）」

第1回懇談会 ―第2工区の現状・課題―

■高山地区第2工区の現状と課題



■学研都市全体の中での高山地区第2工区の位置づけ

- ・“新たな都市創造プラン”が目指す方向であるオープンイノベーション機能を担う街と位置付けるべき。
- ・先端大があることの価値は学研都市にとって非常に大きい。その先端大と連携できる環境が高山の最大の魅力。
- ・先端大は生命科学の分野など企業コンソーシアムに力を入れている。
- ・学研都市というエリアの中での高山の位置付け論を早い段階から議論し、この懇談会の共通認識としておく必要がある。

■経済・産業面での高山地区第2工区整備の重要性

- ・住宅都市である生駒市では将来的に税収減が予測される。何らかの経済活動やものづくり産業を高山第2工区で創出することは都市運営面からも必要

■居住機能を導入することの意義（学研都市における居住機能の意味づけ）

- ・“実験都市”や“モデル都市”的な意味づけが必要ではないか。
- ・大阪のベッドタウンを造るのではないとの認識のもと、どのようなニーズに応えるのか、居住者像・生活圏の設定など、開発思想について整理・検討が必要。
- ・研究開発施設と住宅地とがセットで存在し、研究成果を生活に活かすことができることが学研都市のメリット。
- ・研究開発のノウハウを日常生活にうまく反映させた最先端の生活環境が高山では目指すことができると思う。実現するためにどうすべきか議論したい。

■都市と農との共生のためには農そのものを成立させるための方策を検討すべき

■交通ネットワーク形成 「精華・西木津地区」との連絡は最重要事項

- ・「北生駒駅」へのアクセス道については学研都市の交通基盤として検討すべき。
- ・広域連携のためには、高山地区と「精華・西木津地区」がR163ではなく、直接、内側で結ばれることが大事である。

■需要ニーズを踏まえて段階的に開発を行う「新しい計画論」

- ・「将来のあり方」から考えて高山にどのような需要、ニーズが求められているのかということ把握したうえで開発の中身を詰めていくことが必要。
- ・また、段階的に或いは暫定も含め順次時間の経過とともに作り上げていく、場合により部分的には作り変えていくことも視野において開発論を検討すべき。（村橋座長）

第2回懇談会 ―まちづくりの方向性―

■高山地区第2工区の役割・まちづくりの方向性



■高山地区第2工区の役割

- ・高山地区が学研都市の拡大中心地区としての役割を担っていくために、「新たな都市創造プラン」で示す研究拠点や地域産業とのネットワークの構築が重要である。
- ・人口減少下における持続可能性の観点を踏まえ、事務局案を今後のまちづくりを展開していくうえでの基本とし、その重要性を念頭にこれからの議論につなげていく。

■研究開発型産業施設等の導入について

- ・オープンイノベーションの実現を図るためには、土地利用に多様性がある強靱な地域とすることが必要で、研究・研究開発型のみではなく『ものづくり産業』や『ことづくり産業』等、多様な産業の立地を図っていくべき。さらに、居住との関係や高齢化の視点等からも幅広く、導入すべき産業を検討する必要がある。

■居住機能の導入について

- ・学研都市での居住機能のあり方として、住民が企業の研究開発に実証実験的な役割で参加するという、居住実験的なエリアと位置づける視野も必要。また、職住近接に加え職住合一等も新たな展開論として考えるべき。

■自然環境の保全と農の導入について

- ・市民農園など居住魅力としての農の見方と、都市農業施策（6次産業化等）としての見方の両面から検討すべき。
- ・農地を集約し、企業の参入を図るためにはCSRだけでなく、企業側からみてメリット(CSV)がある条件を提示することが必要。

■交通ネットワーク形成のあり方

- ・道路のルート選定は、交通量配分だけではなく沿道や地域に果たす役割から評価すべき。
- ・また、広域交通（学研連絡道への接続等）と域内交通のあり方（最寄駅、精華・西木津地区との連絡）や、学研北生駒駅と学研奈良登美ヶ丘駅の機能分担を整理したうえで検討すべき。
- ・さらに、造成計画と併せて交通ネットワークを検討する必要がある。

第3回懇談会 ―第2工区の土地利用―

■高山地区第2工区の土地利用について



■北田原地区の現状について

- ・北田原地区では既存のものづくり産業が立地している。
- ・R163バイパスが整備されるタイミングをとらえ、「ものづくり」も視野に学研都市のクラスターとしての位置付けを明確にし、整備方針を定めて推進する。

■高山地区第2工区の土地利用の方向性

- ・マスタープランを検討するうえでの大きな考え方は整理できたが、土地利用の概念はもう少し詳細に定義する。
- ・「都市的土地利用」の範囲は一つの事業範囲としては大きすぎるので、さらに分割されることも想定し段階的な整備計画を検討する。
- ・自然的土地利用の定義がイメージしにくいので、もう少し具体的な検討が必要。
- ・生物多様性保全上重要な里地里山エリアに隣接している第2工区北側については、自然環境等に配慮するという観点で検討すべき。
- ・「自然的土地利用」については、自然を重視した土地利用を図りつつも一定のエリアは整備することもありうることを想定し、柔軟に対応することで検討する。
- ・自然的土地利用の望ましい範囲が広すぎるので、都市的土地利用と中間的な範囲も考える。
- ・自然的土地利用を図るための施策を検討する。

■交通ネットワーク形成のあり方

- ・広域のネットワークのあり方については概ね整理できた。
- ・高山南北線のあり方等は、全体のネットワーク、府県道、市道との関係、都市計画決定の扱い、土地利用ゾーニングの検討と併せて議論する。
- ・高山東西線は、精華・西木津地区と高山地区を繋ぐ道路の重要性を明確に打ち出し、府県道や市町村道の扱いを踏まえた位置づけが必要である。
- ・県道枚方大和郡山線までの延伸は、北田原地区のアクセス、クラスター間の連携としての意味をもつ可能性がある。
- ・段階的な整備計画と併せてインフラ整備にも優先順位をつけて検討する。
- ・北生駒駅～高山地区～精華・西木津地区～祝園駅をクラスター間の連携ルートとし、公共交通で結ぶことも念頭において検討すべき。